

きらきら

今、ひとりひとりが...



特集・男女共同参画

- 男女100人に聞きました。 2
- きらきら10年 5
- いきいき未来いが2010 6
- 伊賀の育(イク)メン 7
- ハートにきらきら「めざせ!かかと美人」 8

2010年秋号

第20号

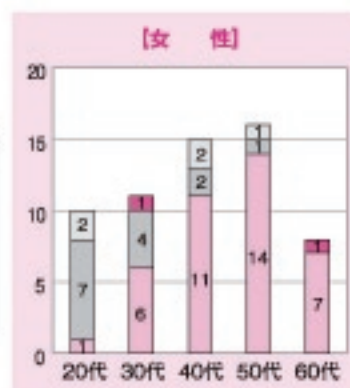
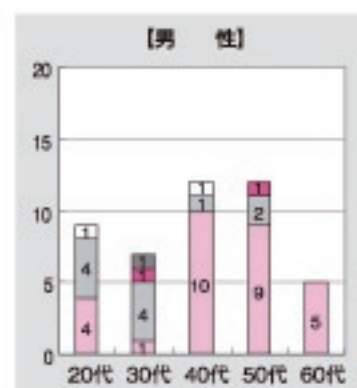
男女 100 人に聞きました。

2001年創刊の「きらきら」は、10年目、第20号の発行を迎えました。

「きらきら」と言えば、市民のみなさんの声でつくる100人アンケート。
市民参加の情報紙として、今回も市内在住の20～60代男女100人にご協力をいただきました。

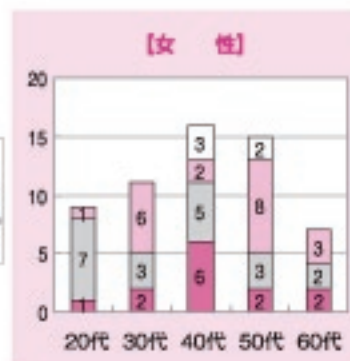
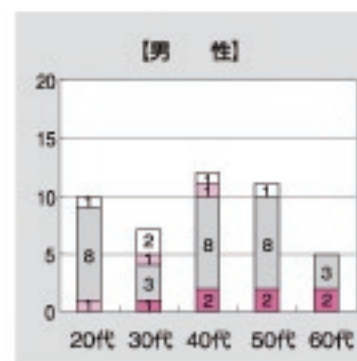
	20代	30代	40代	50代	60代	計
男性	9	11	14	15	7	56
女性	9	7	12	11	5	44
計	18	18	26	26	12	100

100 人の内訳



問1. 家庭での家事は、主に誰がしていますか？
(複数回答あり)

主に、父・夫と答えた割合は、
第1号のアンケートでは、100人中3人。
今回は、複数回答ありで 7人。



問2. 問1の答えについて、どう思いますか？

家事は圧倒的に女性が担っています。男性は「感謝している」の答えに対し、女性は分担を望んでいる。

男女共同参画社会とは、

「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会(男女共同参画社会)とあります。」
基本法第2条(1)

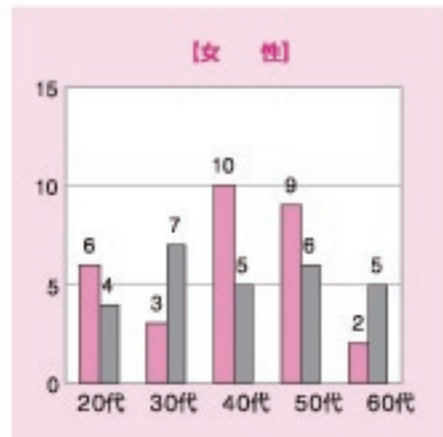
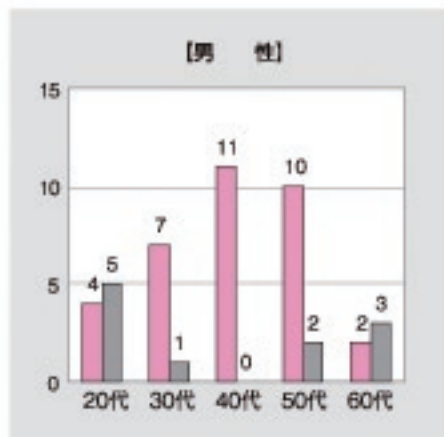
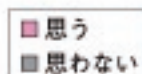
社会のいろいろなことを、共に考え、共に社会に参加して作り上げていくこと、男の人も女の人も、それぞれ自分らしく、生き生きと個性を発揮できる社会。

ひとりひとりが「きらきら」輝く社会が、男女共同参画社会です。



問3. -1. 家庭では、男女平等だと思いますか？

男性は、「家庭内で平等と思う」と答えている人がほとんどの中、20代男性では、「思わない」という人が半数以上。

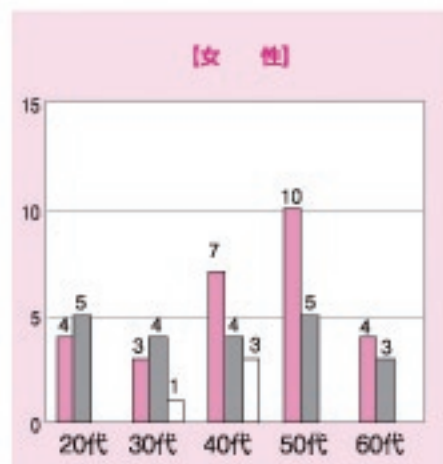
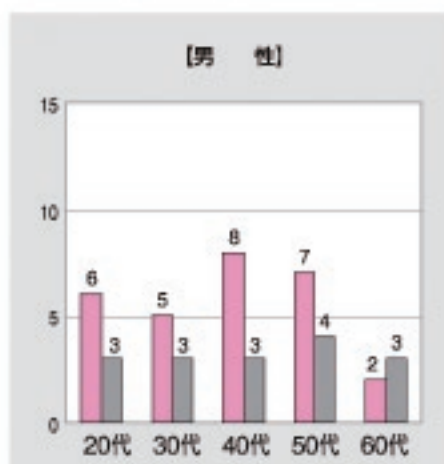
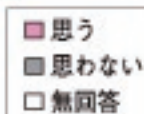


(思わない理由)

- ・感謝はしているが、妻がして当たり前と思っている。(50代男性)
- ・共働きで、夫に頼んだときは手伝ってくれるが、頼みにくい雰囲気がある。(30代女性)
- ・女性も働いていても、家事は、女性ばかりに負担がかかっている。(30代女性)
- ・母の負担が多すぎる。(30代女性) ・父は、全く家事をしない。(30代女性)

問3. -2. 地域では、男女平等だと思いますか？

地域については、平等と「思う」と答えている一方、「思わない」と感じている人もいる。

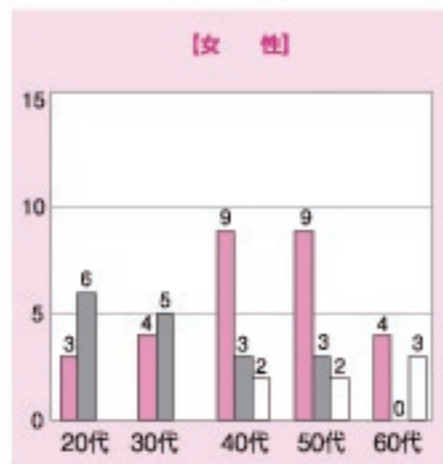
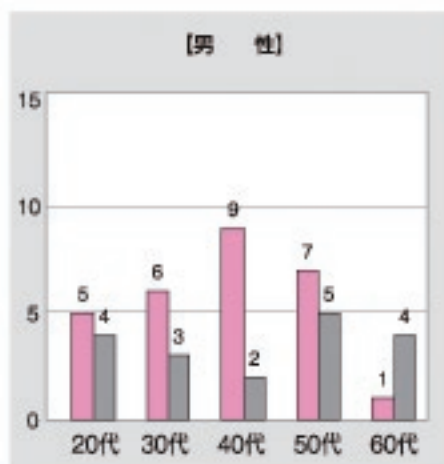
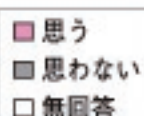


(思わない理由)

- ・大きな(〇〇長とか)役にあたるのは男性。女性はお茶当番。消防も男の人。(20代男性)
- ・男性優位と感ずることがある。(30代女性)
- ・家庭内で家事全般を頼り切っている。(任せてある)(40代男性)
- ・女性の意見が軽くみられる。(60代女性) ・トップの役職は男性が多い。(60代女性)

問3. -3. 職場では、男女平等だと思いますか？

女性20代30代は、平等と思わない人が半数以上。



(思わない理由)

- ・賃金は同じだが、男性のほうが重度で危険度の高い作業をしている。(30代男性)
- ・同じ仕事でも給料に差がある。同期入社の給料の男女差が大きい。男性が圧倒的に多い職場、育休の前例も少ないと思う。(30代女性)
- ・女性が多い職場なので、男性だからと、力仕事を押し付けられる逆差別がある。(40代男性)
- ・管理職につく人がいない。(50代女性)

問4. あなたは、男女共同参画をしていますか？

「はい」と答えた方

- ・仕事場で役職をしているため、女性でも活躍できる場を自ら作っています。(20代女性)
- ・男だから女だからとこだわりを持たない。(30代女性)
- ・息子にも家事を手伝うよう促している。(40代女性)
- ・家事や育児など自分ができる事をしている。(40代男性)
- ・共に話し合う。(60代女性)

問4. あなたは、男女共同参画をしていますか？

「いいえ」と答えた方

- ・男女共それぞれ得意な面が違っていると思うので、昔ながらの考え方に賛成。(40代女性)
- ・意識していないが、自分の生活スタイル、取り巻く環境が自然になっていると思う。(40代女性)
- ・男は仕事、女は家事。(50代男性)
- ・男女共同参画がその定義がはっきりしない。分からない。(30代男性)

ご意見から

- ・主旨はわかるが、浸透していない。(20代男性)
- ・家事だけでなくいろんな面で分担し、それぞれ責任を持つことが大切だと思う。(20代男性)
- ・特に意識していないが、大切な事男女のふれあい、コミュニケーションをたくさん取るべきと思う。(30代男性)
- ・男性、女性だからと区別するのではなく、本人の望む方向に進める環境だったり努力次第で変わったり、成長できる会社や社会や地域があれば良いと思います。(30代女性)
- ・幼稚園も男性の先生がふえてほしい。(30代女性)
- ・正直都合のいい部分だけ、声高々に唱えられると社会全体が動かなくなると思います。(30代男性)
- ・無理せず、出来ることから少しずつ、人として思い合う気持ちで楽しく暮らしていけたらいい。(40代女性)
- ・現実、教育現場では「男女差別」について学習しながら、よりよい社会の実現をめざす教育が展開されているが、社会教育の中ではまだまだ十分な周知とまではいっていないように感じる。(50代男性)
- ・表面的には男女平等といいつつ、内面的には「女のくせに」といった感情がふっしきれないようなケースがあるのではないかな。ちなみにわが家では家事分担しなければという思いがあるが、妻まかせになっている現実がある。(50代男性)
- ・中高年の男性は、女の仕事男の仕事と分けて考えている人が多い。若い人たちは助けあっている気がします。(40代女性)

アンケートを終えて

異常な猛暑の中、アンケートにご協力くださった方々に感謝します。紙面の都合上で載せきれませんでした。貴重なご意見を聞かせていただくことが出来ました。

伊賀でも、若い世代の男性の家事・子育てへの参加する育(イク)メンが増えている一方、依然として30代女性を中心に「共働きでも家事は女性ばかり」という思いがあることを強く感じました。

問4の「男女共同参画していますか？」では、「いいえ」と答えた方も何人かいましたが、特別なことではなく、家庭内で家族が協力しあうこと、それが男女共同参加社会への第一歩。

かつて、「働く女性が社会を変える」といわれ、それには、男性の理解、協力が必要といわれました。今や、「育(イク)メンが社会を変える」という時代へ。制度の充実だけではなく、同僚上司といった周りの人を取り込んだ理解が不可欠でしょう。

少子高齢社会の「今こそ」男女が、共にかけがえのないパートナーとして、コミュニケーションを深め、理解していくことが大切と感じました。

「きらきら」に想う

貝澤 敏子
(元 女性政策課課長)

「一人ひとりが、今居る場所から自分らしく、きらきら」輝いていける21世紀でありたい」と、ボランティアで応募してくださった編集員さん達が名づけた「きらきら」が、平成12年3月に誕生しました。

最初は手探り状態で、何度も話し合いを重ね、苦労の末に創刊号を手にした時の皆さんの顔が今も目に浮かびます。

私が担当したのは、3号までですが、今19号までの「きらきら」を並べてみると、それぞれの表紙から10年の歩みが見えてきます。また、紙面には号を重ねるにつれ男性の登場場面が増え、男女共同参画を広く行き渡らせたいという編集員さん達の思いが伝わってきます。

最近ではスーパー等で、男性が一人で買い物をしている姿を普通に見かけるようになりました。様々な事情により止むを得ずという場合もあるかもしれませんが、男女の役割

分担意識が薄れ、男性も自発的に料理や買い物を楽しむことができるようになってきたのだなとつくづく感じさせられます。

人の意識は、そう簡単には変わるものではないかもしれませんが、さまざまな角度から根気よく言い続けることが、社会全体の様子を少しずつ変えていくものと考えます。

「きらきら」の10年の歩みは、その役目を十分に果たしていると思います。

ボランティア編集員さん達の「苦労に感謝しつつ、これからも発行し続けてくださることを願っています。」



編集員の印象に残る出来事

第2号から参加しています。

読者層を広げようと、上工美術部に表紙を依頼した時の部員たちのまっすぐな目が印象的でした。予算が削られ紙は薄くなったけど、たくさんのお出会いと、ここでの経験が宝物です。(O)

映画「ペアテの贈りもの」をみての第10号の記事。ペアテ・シロタ・ゴードンさんから日本女性への贈りもの、それは憲法24条男女平等。私の心の支えになっています。(M)



編集員メンバー

第4号から参加、いろんな思い出がありますが、私としては、その時々のトレンド（ネイルやヨガ等）を体験させてもらったり、伊賀にも「こんな素敵な人が」という方々との出会いをさせてもらい、今でも付き合いをさせてもらっています。(T)

約2年前、「いきいき未来いが」で、「きらきら」が初めて分科会をしました。SOUL FLOWERの方々の協力を得て、ヒップホップダンスを楽しみました。少数の編集員が一人ひとり持ち味を生かし、やり遂げた時の感動が今も心に残っています。(I)

いきいき未来2010

テーマ ～男女で創ろう！笑顔いっぱい 伊賀のまち～

平成22年6月26日(土)あやま文化センター

今回は、龍谷大学准教授である清水耕介先生に、「日本と海外の家族の違い」と題し、ご講演いただきました。海外生活での経験を通して、特にデンマークでは男の人がベビーカーを押す姿が当たり前に見られることなどを紹介され、講演後の質疑応答では、率直な意見が交わされ盛り上がりしました。



保育園児の絵画展



きらきらパネル展
「料理をしているお父さんは、カッコイイ」



物販販売 賑わいの様子

物販販売

スマイルくの一 / WAIWAI びおら / 交通安全協会女性部
伊賀・島ヶ原おかみさんの会 / 大杉弘美とその仲間たち
伊賀市商工会

展示

ユニバーサルデザイン同夢 / きらきら

今年もたくさんのネットワーク会員の皆様にご協力いただきました。

『話を聞かない男、地図を読めない女』

(男脳・女脳が「謎」を解く)

以前に注目された頃、図書館で読んだものですが、最近、古本屋で購入(なんと105円)しました。もう一度読み直してみると、やはり興味深い内容☆

読書の秋に...

「男性は、“一度にひとつずつ”しかできない。男性に話を聞いてもらうには、時間と議題をあらかじめ伝えるのがコツ。」「女性は、一日分のコミュニケーションをこなすために話しているとき、口をはさむことも望んでいない。(女性にとって話すことは、絆を深める手段であり。心の支えなのだ)」など。
あなたにも、思い当たることがいくつかあるのでは...

♡♡♡ 伊賀の育(イク)メン ♡♡♡

夫婦でじっくり話し合ったこと

私も妻も、市職員で同じ共働き。早くから子どもが生まれたらどのように生活するのかを話し、育児休暇（育休）についても、夫婦どちらでも取得できることを知ってはいたものの、はじめは、自分が育休を取得するとは考えていませんでした。

夫婦で話し合っていく中で、私自身にとっても育児に全ての時間をかけることは一生のうち、今しかできないこと、育休を取得したいという思いが大きくなりました。

私の考えを、妻は快く認めてくれたので、育休の取得を決めました。それから5年後、子どもが生まれる2、3ヵ月前に、職場の上司に育休の希望を伝えました。

職場の応援に感謝！

幸い上司からは「ぜひ、取得しなさい。」と応援をいただき大変心強く、今も感謝しています。職場の方からも快く送り出していただきました。取得したいと思っても、できない状況にある男性が多い中、かなり恵まれたケースだと思います。子どもが2歳のときに、9ヶ月間の育休を取得。それは、伊賀市職員の男性では最初の育休取得者ということになっていました。



自分が主となり育児をしてみて、男性の育休が一般的でないというだけで、男性が育児に向いていないわけでもなく、環境が許すなら取得しない理由はないなと感じています。

育休を取得するかしないか、また、誰が取得するかは、それぞれの家庭の方針により決めるべきことだと考えていますので、全ての男性が取得すべきだとは思いませんが、“育休を取得したい”と考えていても、“男性だから”取得しづらいと思っている方は、ぜひ取得して欲しいと思います。

今しか出来ない経験

今回、私が育休を取得して一番強く感じたのは、休日に子どもと1日を過ごすのと、毎日24時間一緒にいるのはまったく違うということでした。私は、9ヵ月間という期限がある中での育児でしたが、期限の無い中で主となって子育てをしている人達は、みんな本当にすごいなと感じました。

育児は本当に大変でしたが、それでも子どもが全身で親を必要としてくれるのはきっと今だけでしょうし、今しかできない経験が出来たことは本当に良かったと思っています。

(伊賀市職員 山本 明宏 さん)

改正育児介護休業法（平成22年6月施行）により、これまでできなかった

- 父母と共に育児休業を取得する場合の休業可能期間の延長
- 子の看護休暇の拡充 ○出産8週間以内の父親の育児休業取得の促進など。

詳しくは、厚生労働省ホームページを検索してください。

イクメンプロジェクトもぜひ、ご覧ください。



めざせ！ かかと美人

空気が乾燥する冬は、かかとも乾燥して荒れやすい。かかとは汗腺は、たくさんあっても皮脂腺がないので乾燥しがち。歩く時に足の中で一番に地面につくのもかかと。角質層が厚いので、ゴチゴチ&ガサガサ。

歩く時に痛みが出たり、ひび割れを起こす前に早めにケアをしましょう。

角質ケアの方法

お風呂

ゆっくりと湯船に浸かり皮膚を柔らかくする。
かかとにやさしく軽石をかける。ゴシゴシこすってはダメ！足裏専用やすりで取り除いてもよい。

保湿

入浴後、かかとが柔らかいうちに油分を補給する。
かかと専用のクリーム、又は尿素入りのクリームでゆっくりとマッサージするようにすりこむ。

靴下

クリームを塗った後に靴下を履く。
ラップを巻いて靴下を履いて寝てもよい



角質の健康維持

- ・バランスのよい栄養素を摂ろう……………ビタミン（旬の野菜、大豆、ごま等）はカサカサ予防
ミネラル（海藻類、乳製品）は新陳代謝をよくする
- ・血液とリンパの流れをよくする……………リンパ節の詰りや筋肉のコリを解消する
- ・血液をサラサラに……………脂肪分や糖分の摂り過ぎに注意

身体の内側、外側からケアをして
「ツルツルかかと」に。
角質ケアは、日々の積み重ねデス！



読者の声

妻が読んでいた「きらきら」19号をはじめて読みました。

私が一番興味を持って読んだのは、特集「地域から発信！」の城館跡めぐりで。福井健二先生の名前をこのような情報紙で目にするとはいませんでした。

（49歳男性）

編集後記

十月に咲いた彼岸花。もう咲かないのかと思っていたのに……すごい自然の力！



男女共同参画社会も時期が来れば実現するのだろうか、それが当たり前となるには、まだまだ取り組みが、私たち人間の力が必要なのではないでしょうか。一人ひとりの意識や前向きな意志が実現へと近づけてくれるのでは？そんな情報を発信できたらと改めて感じた20号でした。

【きらくきらく編集委員会】

稲増 博美 岡 久美子
竹山 佐代子 三山 佳代子